

“がんばれ人類！！”

～キョウソウ(共想・共創・共走)社会に向けて～

1 はじめに／セミナーを通して

私たちのグループは今回のセミナーにおいて“持続可能な開発のための教育”(ESD)を進めるにあたり、『ESDとは何か?』という疑問から討論を始めた。

1) セミナー以前のESDに対する認識

①global

先進国が後進国に教える

地域が連携をとり技術を伝える

超国家連合体の組織化

②environment

環境マネジメント

川のそうじ

油田を掘る

ごみの分別

森林の手入れ

③human

2020年問題の解決

高齢者と日常的に接する

情報収集

未来へ責任を持つ勉強

④mental

こころの教育

悩みぬく力の育成

2)議論の結果、生じた疑問

漠然としているのはなぜか



ESDは新興の概念：定義に流動性がある

↓その理由は

- ①ESDを誰が担うかという主体性の曖昧さ
- ②ESDを誰に行うかという対象性の曖昧さ



個々の価値観の差異が影響している

〈ESDは本来、身近なことであるはずなのに、身近なことと感じられないのは何故だろうか？〉

理由

- 既存教育
- 自分の感覚を通してモノを実感していない
- 溢れている文字・映像：マスメディアの情報
→ 脳内のイメージが先行・実感が後付け
- 日々の生活に定着していない
- 本来、人間は楽な道に進む

2. 共通土台の形成と問題提起

●ESDにたいする新たな気づき

自分たちが受けてきた教育にESDの活動内容が既に含まれていた

↓つまり

ESDとは新しい教育内容ではなく、目的が付け加されて再構築されたもの

→Think globally を担う人々がAct locallyを実践する人々の活動をESDと呼んだ

グループ討論を踏まえての問題提起

〈ESDをこれから進めていく・広げていくために必要なことは何か？〉

3. 世代・共同体に適したアプローチ

具体的解決方法を考えるためにはそれぞれの「生活環境」や「価値観」を考える必要がある。それぞれの世代・共同体には、これまでに生きてきたという文脈がある。

それを断ち切ることなく、それぞれの文脈に調和するアプローチでなければならない。したがって、アプローチが多様になるのは必然である。

1) 世代に適したアプローチ

地球環境は急速に悪化しつつあり、緊急的措置と多様な担い手が必要！

現在のESDの対象者：主に児童・生徒

= 成人に対するESD

学習者にも担い手にもなりうる

お年寄り・・・知恵を子供たちに教えることで
喜びを感じることもある

2) 共同体に適したアプローチ

Ex) 人口問題

先進国とそれ以外の国で同じように取り組むことはできない

→〈それぞれの国に合った取り組みをすればいずれは地球市民全体の幸福に結びつくのではないだろうか？〉

以上のように、

私たちは様々な世代・共同体に適したアプローチの多様性を認める。しかし、各々の共同体が向かっている方向が違っていても、その効果が相殺される可能性がある。

地球全体として効果を上げるために、私たちは共通の目的に向かう必要がある。

4. まとめ

このように、
それぞれの「生活環境」の中で生き、それぞれの「価値観」に基づいて生きている人々が自分たちにできる具体策を考え、実践するのが最もよいと考える。

それに導くのがESDである

その多様なESDに共通して求められるもの

- ①世界規模で起こっている人口問題や食糧問題、エネルギー問題等があることを認識し、それを解決するという「目的」を共有すること
- ②ESDの活動となりえる既存の活動に「目的」を与え、同じ方向に向かうこと